

本の

HON-NO-HIROBA

ひろば

ISSN 0286-7001

一般財団法人キリスト教文書センター

1957年7月17日第三種郵便物認可

2024年11月1日発行(毎月一回1日発行)第803号

出会い・本・人

不心得者の卒業生に与えられた二書 松本郁子

特集シリーズこの三冊！

性と生殖に関する健康と権利を知るためのこの三冊！

大嶋果織

◆本・批評と紹介

鈴木範久著 内村鑑三問答 柴崎 聰

内坂 晃著 講解説教 出エジプト記 犬養光博

スチューアト・バートン・ニコルズ伝編纂委員会編

スチューアト・バートン・ニコルズ伝 本井康博

北口沙弥香著 傷によって共に生きる 島しづ子

岩本遠億著 聖霊は愛を完成する 濱和弘

吉見崇一編訳 ユダヤ教の祈り 勝又悦子

B・U・シッパー著/山我哲雄訳 古代イスラエル史 長谷川修一

西谷幸介著 「日本教」の弱点 深井智朗

カルヴァン・改革派神学研究所編

災禍において改革された教会 齋藤五十三

◆近刊情報

◆書店案内

ギリシア教父の世界

ニカイアからカルケドンまで

F・M・ヤング 著 関川泰寛 / 本城仰太 訳

英国を代表する教父学者による最新の概説

キリストの神性が激しく議論され教義が発展した4〜5世紀。当時の神学論争や教会生活に関わり、主に東方地域で活躍した著述家たちを、主要文献の概要とともに紹介。最新の研究から多様な神学思想とその歴史的背景を解説した、教父学への最良の手引き！

● A5判・上製・690頁・定価8,470円



既刊、好評発売中！

古代ギリシア教父の霊性

久松英二 著

東方キリスト教修道制と神秘思想の成立

ギリシア教父たちが模索した「神に向かう人間のあり方」はキリスト教霊性として結実し、修道制と神秘思想、神化思想を成立させた。すべての教会の共有財産であり、東方教会理解の鍵となる霊性思想の起源と発展を探究する好著。● A5判・上製・318頁・定価4,180円

教父哲学で読み解くキリスト教

土橋茂樹 著

キリスト教の生い立ちをめぐる3つの問い

2〜4世紀に活躍した東方教父(ギリシア教父)たちは、古代ギリシア由来の哲学的な考え方をどのように用いて、教義の土台となる「キリスト論」を形成したのか。キリスト教の根本思想の背景を明快に解き明かした入門書！

● 四六判・並製・234頁・定価2,640円

オンデマンド復刊

ローマ人への手紙講解2

4〜6章

榊原康夫 著



日本キリスト改革派東京恩寵教会の名誉牧師・榊原康夫による連続講解説教の記録。ギリシア語本文を丁寧・紐解きながら、聖書の言葉をひとつひとつ解説する著者の説教は、パウロによって鮮明にされたキリスト教信仰の精髓を明確に浮かび上がらせ、人々を救いの喜びへと招き入れる(全5巻)。本書は、4章1節〜6章23節の説教を収録。

● 四六判・並製・280頁・定価3,850円

キリスト教音楽への招待

聖なる空間に響く音楽

佐々木しのぶ / 佐々木悠 著

ヨーロッパ音楽の源流となった教会音楽の歴史をコンパクトに解説。讃美歌、礼拝、暦、教会建築、楽器など、教会音楽をはじめて学ぶ人にとって必要不可欠な入門書。写真・図版を多数収録し、見ても楽しい充実の1冊。

● A5判・並製・130頁・定価1,980円



不心得者の卒業生に与えられた二書

松本郁子



人本

母校でもあり、職場でもある学校での、ある日の編集会議のこと、ご退職された先生に「あなたはこの学校をお創りになった宣教師の先生のどなたをご存じ？」と質問されました。私は悪びれることなく「ほとんどどなたも存じません！」と回答しましたが、その時の先生の驚愕に加え、お隣にいらした元同窓会会長の「嘆かわしい……！」というお顔を今でも忘れることはありません。当時学校は、忘れられつつあるカナダの宣教師についての本を編集しようとしていました。このような不心得者の卒業生に宣教師の業績をきちんと伝えることが編集の目標となりました。そうして刊行されたのが『カナダ婦人宣教師物語』（東洋英和女学院、2010年）です。

知識ゼロからスタートした私の本づくりへの参加でしたが、編集のため読み始めた宣教師の先生方の史料は新鮮な発見の宝庫でした。しかし、その「新しい」はずの発見の一つひとつは、自分の中に深く根付いている感覚―おそらく中高生時代に受け

た教育によって培われてきたもの―に結びつき、「既知」のものでもあるような、不思議な高揚を覚え仕事に励んだものです。同時期に、広報の仕事で『アンのゆりかご』村岡花子の生涯（2008年）を上梓したばかりの東洋英和の上級生である村岡恵理さんを取材する機会がありました。『アンのゆりかご』もまた、東洋英和の歴史史料を徹底的に調査して生まれた評伝です。「在校中はわからなかったけれど、私たち、すばらしい学校に通っていたのね」と語っていらしたのが印象的でした。同書からも多くを学びました。

東洋英和という学校の幸福は、『カナダ婦人宣教師物語』や『アンのゆりかご』という、年史等では語りきれない宣教師の息遣いを伝える書物が与えられたことにあり、私もその恩恵を受けた一人です。この二書によって開かれた扉を通じて、不心得者の卒業生は現在、学校の史料室の業務に励むに至っています。

（まつもと・いくこ）東洋英和女学院法人事務局史料室



▼シリーズ この三冊！

セクシュアル・リプロダクティブ・ヘルス/ライツ 性と生殖に関する健康と権利を知るための この三冊！

大嶋果織

(おおしま・かおり) 日本キリスト教協議会総幹事

日本キリスト教協議会 (NCC) は、

本年三月に開催した第四二回総会で、

「ジェンダー正義に関する基本方針^{*}」を

採択しました。これはNCCが、ジェン

ダーやSOGIESSC^{**}に基づく差別や抑

圧に加担してきたことを悔い改め、これ

からは教会と社会を「安心で安全な場

所」にしていくために努力する姿勢を明

らかにしたものです。

この基本方針には、一〇の行動原則が

示されています。一〇番目が、「性と生

殖に関する健康と権利」です。本文を紹

介しましょう。

原則10…性と生殖に関する健康と権利

性と生殖に関する健康と権利 (sexual

and reproductive health and rights:

SRHR) は、個人が自分の身体、性自

認、性的指向、生殖に関する選択につい

て自由かつ責任をもって決定する権利で

ある。NCCは、すべての人のSRHR

の保護を目指す。それは、個人が差別、

強制、暴力を受けずに、自身の性的関係

避妊具の使用、医療と健康に関して、正

しい情報に基づいて自己決定できるように
にするためである。SRHRには、同意

年齢の知識、避妊具の選択と安全性、母

体と新生児の健康、性感染症やその他の

生殖器感染症およびHIVの減少、リス

クの高い中絶の防止、性的健康の促進が

含まれる。NCCは、インクルーシブ

(包含的) な性教育が、人権と尊厳のた

めに不可欠な要素であると確信する。

いったいどういうことなのでしょう。

性と生殖に関する健康と権利 (以下SR

HR) を抽象的な概念としてではなく、

日本に生きるキリスト者の課題として具

体的に理解していくために、次の三冊を

紹介します。

* NCCホームページに掲載

** 性的指向 (Sexual Orientation) ・性

自認 (Gender Identity) ・ジェンダー

表現 (Gender Expression) ・性的特

徴 (Sex Characteristics)

①毎日新聞社取材班編『強制不妊 旧優生保護法を問う』

本書は、旧優生保護法下で実施された強制不妊手術の実態を、被害者やその家族、医療関係者への取材、厚生労働省や都道府県に残された資料の掘り起こし等によって明らかにしたものです。

一九四八年に成立し、一九九六年に母体保護法に改正された優生保護法の第一条には、次のような目的が掲げられ、第三条で任意の不妊手術、第四条で強制不妊手術の要件が定められていました。「この法律は、優生上の見地から不良な子孫の出生を防止するとともに、母性の生命健康を保護することを目的とする」。施行当初は、憲法違反の人権侵害ではないかという問い合わせが実務を担う都道府県から相次いだそうです。しかし、その後、この法律の下で約二万五千件の不妊手術が行われました。その内、同意無しは約一万六千件です。強要された同

意が多数あったので、同意・不同意を分ける意味はないでしょう。対象になったのは、「不良な子孫」を生むと見なされた「障害」者や病者、素行不良とされた者などで、性別は女性三に対し男性一でした。

その一人、飯塚さんは一四歳の時に騙されて卵管を縛る不妊手術を受けさせられました。それ以来何十年も腹痛や倦怠感に苦しんでいます。睾丸にメスを入れられた小島さんは、六〇年たった今も悲しみや苦しみが消えません。両足の付け根には傷が残り、下腹部の激痛は慢性化しています。これが、SRHRを奪うということなのです。

NCCは一九六四年の総会で、「家族計画ならびに人工妊娠中絶に関する声明書」を採択しましたが、その中には、「障害」者や病者はできれば生まれてこないほうがよいという考えが含まれています。NCCは今年の「平和メッセー

ジ」で、このことに対する悔い改めを表明しました。しかし、それで終わりではありません。原則10で約束した「すべての人のSRHRの保護を目指す」には、わたしたちの中の優生思想や「障害」者差別の現実と向き合う必要があります。これは全てのキリスト者に共通する課題でしょう。そんな問題意識をもって読みたい本です。

②塚原久美『中絶技術とリプロダクティヴ・ライツ フェミニスト倫理の視点から』

本書は、「日本の中絶の大多数を占めている妊娠初期の〈中絶〉に焦点を合わせて、技術、法、倫理の三つの側面から日本人が常識だと思いつ込んでいる〈中絶〉を問い直す」ことを目的としています。

わたしは本書を読んで、新しい知識をたくさん手に入れました。その一つが、

日本の中絶技術が恐ろしく時代遅れだということ。本書によれば、「先進諸国」では、一九七〇年頃には中絶の方法は、子宮内容物を道具で掻き出す「掻爬」から、吸い出す「吸引」に変わりました。そのほうがずっと安全に、また、

早い段階で処置できるからです。一九八〇年代になると、妊娠を維持する黄体ホルモンとの働きを妨げる中絶薬が開発され、広く使用されるようになりました。現在では「先進国」でも「発展途上国」でも吸引か薬か、どちらかが一般的になっています。ところが日本では、いまだに「掻爬」が多用されているのです。

妊娠週数の早い段階で、できるだけ安全な方法で中絶ができることは重要です。妊娠検査薬の感度がよくなったため、現在では妊娠五週目の段階で九割以上の女性が妊娠に気づくとのこと。しかし、掻爬の場合、手術に適した時期があるため、妊娠七週から八週まで待たなくてはなり

ません。胎児が成長すればするほど、中絶が女性の心身の負担になることは容易に想像できるでしょう。つまり日本では女性の心身の健康は二の次という、SR HRからほど遠い状況なのです。

本書は、中絶技術の変遷はもちろん、胎児観の変遷、避妊技術の変遷、中絶をめぐる議論の変遷、法や政策、日本と欧米における中絶をめぐる倫理の違いなどを、エビデンスを示して丁寧に論じています。原則10の実現のためには、こうした知識が必須です。本書は、「胎児のいのち」か「女性の権利」かの二項対立から抜け出せないキリスト教界の議論に、新しい道を開いてくれるでしょう。

③包括的性教育推進法の制定をめざす ネットワーク編『なぜ学校で性教育ができなくなったのか 七生養護学校事件と今』

本書は、二〇〇三年の東京都立七生養

護学校弾圧事件に注目し、その経過と意味を探りながら、科学的知識と人権尊重の原則に基づいた「包括的性教育」が今いかに必要かを明らかにしたものです。

この本には、七尾養護学校で歌われていた「からだうた」が紹介されています。「あたまのしたに くびがあつて かたがある」というふうには、自分の身体に触れながら、それぞれの部分を確認しながら歌います。「むねにおっぱい おなかにおへそ おなかの下に ワギナ（ペニス）だよ」と性器もできます。これは、知的障害がある子どもたちが自分の身体を肯定的に受け止めながら、性について学んでいけるように教員たちが生み出した性教育の時間のテーマソングです。

しかし、この歌は都議会で「口にするものはばかられる」と非難され、同校の性教育は政治家やマスコミによる激しいバッシングの対象となりました。そして、東京都教育委員会による教材没収、校長



『強制不妊——旧優生保護法を問う』

毎日新聞取材班：編
毎日新聞出版
2019年刊
四六判 304頁
1,760円

や教員への処分によって、積み重ねられてきた教育実践は潰されてしまったのです。この一連の出来事の背景には旧統一協会があると言われています。

旧統一協会は、「科学、人権、自立、共生を柱にした性教育」を目指す民間団体の活動に、「性器・性交・避妊教育」というレッテルを貼り、保守系の政治家やマスコミと結びついて、誹謗・中傷や攻撃を各地で繰り返していました。七生

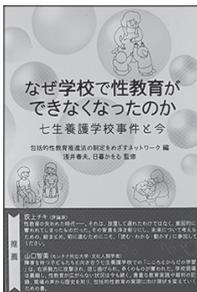


『中絶技術とリプロダクティブ・ライツ——フェミニスト倫理の視点から』

塚原久美：著
勁草書房
2014年刊
A5判 324頁
4,070円

養護学校事件もその流れの中にあります。この事件により日本の性教育は大きく後退し、今日に至っています。

このような状況にキリスト教も無関係ではありません。アメリカのキリスト教右派の影響を受けて、包括的性教育に反対し、性の多様性を否定し、結婚まで性交させない純潔強制教育を主張するキリスト者も多いからです。しかし、自分の身体／性のありようを知らずして、どう



『なぜ学校で性教育ができなくなったのか——七生養護学校事件と今』

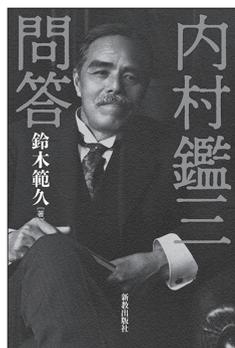
包括的性教育推進法の制定をめざすネットワーク：編
浅井春夫、日暮かおる：監修
あけび書房
2023年刊
四六判 184頁
1,760円

して自分と他者を大切にできるでしょう。身体／性の話をするのは恥ずかしいと感じているキリスト者にぜひ読んでほしい本です。

後半で論じられる「包括的性教育推進法」制定の提案、「LGBT理解増進法」が理解抑制法と批判される理由、「LGBT教育」ではなく「クィアアペダゴジー」推進の提案は、SRRHRの実現に何が必要かを考えさせてくれます。

内村の人間性に最接近する

〈評者〉柴崎 聰



内村鑑三問答

鈴木範久著



書名には、「問答」という言葉が添えられています。通常、「問答」は、「禅問答」や「押し問答」という熟語からも明らかのように、問う者と答える者がいて、攻守を交代しながら、言葉を手立てとして丁々発止とやりとりすることですが、本書の示唆する問答者とは誰なのでしょう。内村鑑三だけではなく、著者自身も含まれると思います。

本書に収められた二十四の問答名には、終助詞「か」（一つだけ疑問符がない見出しがある）が付随しています。離婚、友情と不和、不敬事件、天皇観、無教会主義の深意、義戦論と非戦論など話題は多岐にわたりますが、著者の遠慮によっておもむろに内村の核心へと誘われていきます。

「序にかえて」では、研究の始めの頃は嵐に抗してひとり立つ「仰ぎ見るほど高所に居る存在」だった内村への畏敬の念が、年齢を経るにしたがって、内村の弱者に対する

まなざしの方に、より多くの共感を覚えるようになった、と著者は述べ懐きます。この気づきは全篇を通して貫かれていて、生活の機微に裏打ちされた人間性に対する共感は、実に温かく穏やかで静かです。

著者は宗教学・宗教史学の泰斗たいとですが、単に書齋に留まっている机上の学者ではありません。前著『聖書を読んだ30人』（日本聖書協会、二〇一七年）を読めば、知識力だけではなく現場に赴く脚力によってこそ、誠実に取材されていることを知らされます。

史料や文献を読み込み、人を訪ね歩いて証言を聞く。そこで得た「状況証拠」に対しても著者は謙虚であり、安易な類推には抑制的です。文学者であり研究者である著者の真面目がそこにあります。

「三 進化論をどう理解したか」では、「進化論」との内

村の葛藤が述べられたあと、「進化論と人間との関係を受け身のみ見出そうとする見方に対し、植物でさえも相互的であるから、まして人間をや、との内村の考えが読み取れる」と言います。著者は、人間だけでなく植物の相互性にも目を向けた内村の先見性と前衛性に瞠目しています。

「二〇 文学者たちは背教したのか」で取り上げられている文学者は、正宗白鳥、有島武郎、小山内薫、志賀直哉、長与善郎です。著者の見解は実に温かいものです。裁いていないからです。

「ここに採り上げた文学者たちは、それぞれ自立の道に踏み入っただけであって、真正面から「背教」には迫害に加担するほどの仕打ちがなければならない」と言います。

キリスト教に接近しながらも、葛藤の後にそこから遠ざかるうとするその状態に「離教」「棄教」「背教」の段階があると私は考えていますが、「背教」には迫害への加担がなければならぬとする著者の見解に私は全幅の賛意を表したいと思います。

「二一 一 生貧しかったか」で詳述される生活費の工面、雑誌の印税の詳細などに生身の人間としての内村が垣間見えています。傑出した偉人がすべて霞を食べて生きていたように誤解してきた自分への戒めになりました。

内村の人間味に親しく触れられた貴重な読書体験でした。
(しばさき・さとし 詩人、日本聖書神学校講師)
(四六判・二八〇頁・定価二九七〇円・新教出版社)

未来への言葉

クリスチャン・
エンディングノート

高橋貞二郎／増田琴 監修



地上での生涯を終えるその時に備えて、キリスト者が書き留めておくべき事柄をまとめたノート。これまでの歩みを振り返りつつ、未来への歩みを始めるために。

B5判 並製・64頁・定価1430円

イザヤ書を読もう上

大島力

ここに私がおります



旧約聖書を代表する書物のひとつ、イザヤ書。この書の専門家である著者が、イザヤ書の前半を30回にわけて丁寧に読み解く。イザヤ書通読の必携書。

四六判 並製・208頁・定価2640円

日本キリスト教団出版局

〒169-0051 東京都新宿区西早稲田2-3-18

☎03-3204-0422 ☎03-3204-0457

E-mail eiyou@bp.uccj.or.jp (価格10%税込)

<https://bp-uccj.jp>

『出エジプト記』を読んで キリストに出会う

〈評者〉 犬養光博



講解説教
出エジプト記
内坂 晃著



内坂晃先生の『講解説教 出エジプト記』を読ませていただいた。

大きな感動と、幾つかの問いかけをいただいた。

『出エジプト記』四〇章全体を、御自分の教会の説教で語られたのだ。

準備としては、関根正雄先生の訳、酒枝義旗先生の訳、その他三人の方々の訳を参考にしながら、内坂先生自身の解釈をはつきりと語られる。

神がモーセを通して何を語られたのか、何をされたのかを。

その時、現在の聖書の『出エジプト記』は長い歴史の流れの中で、いろんな資料が混ざり合って編集されたものなので、それを解明しなければならない。

先に挙げた先生方の解釈を検討しながら、現在の聖書の

『出エジプト記』を読み解いてゆかなければならない。

そして、それが現在の自分達にどういう意味を持つのか、と問われる。

その時の、内坂先生の視点は、今、キリストが我々にどう語られているか、という問いかけだ。

本当に見事だと思う。

でも、内坂先生は、絶対に自分の考えを押し付けようとはされない。

説教の中で必ず出てくる言葉は「皆さんはどう思われますか」という問いかけの言葉だ。

僕はこの説教集を読ませていただいて、「教会の礼拝とは何か、説教とは何か」ということを何回も問われた。

この本では、『出エジプト記』は、資料別に整理されたものが読まれている。聖書の『出エジプト記』ではモーセ

ヨベルの新刊・既刊案内



新書判・平均304頁・
各巻本体1540円

『ヨロッパ思想史』
金子晴勇 キリスト教思想史の例話集
物語集 第1回配本

キリスト教思想史を学ぶすべての人に、
あてもなく絵画を観るように理解できる例話集成！

I 「物語集」(既刊)
II 「人間学的命題集」(次回配本)
III 「キリストとの「共生」の神秘」
IV 「愛のかたち」
V 「試練のかたち」
VI 「霊性の輝き」

* 表題が変更される場合があります

予約承り中!



『ヨロッパ思想史』
金子晴勇 キリスト教思想史の諸時代
好評発売中 全7巻別巻2 完結!

新書判・平均272頁・
各巻本体1,320円

I 「ヨーロッパ精神の源流」(2刷)
II 「アウグスティヌスの思想世界」(2刷)
III 「ヨーロッパ中世の思想家たち」
IV 「エラスムスと教養世界」
V 「ルターの思索」
VI 「宗教改革と近代思想」
VII 「現代思想との対決」
別巻1 「アウグスティヌスの霊性思想」
別巻2 「アウグスティヌス三位一体論研究」

ヨベル YOBEL Inc. info@yobel.co.jp
〒113-0033 東京都文京区本郷4-1-1-5F
TEL03(3818)4851 FAX03(3818)4858
出版の手引き / 呈 (税込)

を通して、神が語られるのだが、それを学びながら、教会の説教では、内坂先生がキリストの出来事を語られる。キリストの出来事は、教会の中だけで起こることではないので、内坂先生は、多くの方々のキリストとの出会いを、いろんな方々の出来事の記録を紹介しながら語られる。その紹介が素晴らしく、キリストがその説教を通して、教会に来られている人や、この本を読まれる人々にも呼びかけてくださるに違いない。

この本は、そんな出会いをいくつも紹介している。でも、そのキリストに従う、ということは決して生やさしいことではない。いや人間の側からは不可能なことなのだ。そんな人間に対して、キリストが呼びかけてくださっているのだ。

(いぬかい・みつひろ) 日本基督教団平戸伝道所協力牧師
(A5判・七二〇頁・定価五二八〇円・キリスト新聞社)

日米交渉史のひとコマ

〔評者〕 本井康博

S・B・ニコルズ（一九〇〇～一九二五）は、同志社アーモスト館（登録有形文化財）の生みの親である。アーモスト大学を卒業した一九二二年、最初の学生代表として同志社大学に派遣され、YMCA寮を拠点に二年間、学生指導と日米交流に尽力し、皆から慕われた。

二年後に帰国し、ユニオン神学校に入学。しかし、宣教師として日本（同志社）に戻る夢はかなわず、在学中に肺結核に罹り二十五歳で没した。

息子の召天を悼んだ母親（マーサ・S・ニコルズ）は一九二八年に伝記を著した。さらに二万五千ドルを寄付し、息子を記念する同志社YMCA館の建設を申し出た。

アーモスト大学はこの件を同志社大学構内にアーモスト館を建てる計画にまで拡大させて募金し、総額六万五千ドルの寄付を集めた。建物は一九三二年に竣工し、同志社



スチュアート・バートン・ニコルズ伝
アーモスト大学と同志社の交流
スチュアート・バートン・ニコルズ伝編纂委員会編



アーモスト館と命名された。ホールには新島襄の、そして玄関にはニコルズの記念タブレットが飾られた。除幕式は六月四日で、新島八重が前者の、そして旧友の中村貢が後者の除幕を担当した。八重はこの十日後に急死した。

学内での校葬後、アーモスト館寮生たちが八重の棺台を若王子山頂（同志社墓地）まで運び上げた。八重はニコルズを可愛がり、襄を「十九世紀の清教徒」、ニコルズを「二十世紀の清教徒」と称えた。二人の清教徒は奇しくも同じ高校と大学の卒業生でもある。

竣工した同志社アーモスト館は以後、外国人教員やアーモスト・フェローの宿泊、滞在だけでなく、日本人学生の寮（アーモスト寮）として大きな役割を担った。

入寮生のひとり、神学生の渡邊義治（一九一六～一九四四）はニコルズ伝や先輩からの情報によりニコルズの働き、

人柄、志を知って感激し、伝記作成を思い立った。三年間の寮生活で書き上げた伝記は、渡邊が神学科を卒業した年（一九四一年）の十一月十五日に同志社アーモスト館から刊行された。

それより二十三日後の十二月八日、日本軍の真珠湾攻撃により太平洋戦争が勃発。アーモスト館関係者に大きな衝撃を与えた。渡邊も応召して戦地に送られ、戦死する。

戦時下、軍部が敵性語（英語）入りの校舎名を禁じたので、アーモスト館は「新島記念館」と改称された。さらに軍部には敵国の資金で生まれた建物を接収し、海軍病院とする案もあった。一方のアーモスト大学は戦争中も学内のジョンソン・チャペルに掲げた「アーモストの輝かしい息子」・新島の肖像画を降ろそうとはしなかった。

戦争が終わるや、日米間の相互理解のために民間資金を許に同志社大学日米文化財団（現一般財団法人同志社日米文化財団）が発足。同団は今回、初代学生代表派遣百年記念に本書出版を企画した。編纂委員会には財団代表理事のアン・ケリー氏ほか両大学ゆかりの六名が加わった。

本書は渡邊著ニコルズ伝の現代表記、マーサ著ニコルズ伝の日本語訳（後半の抄訳）、渡邊の略歴とアーモスト・同志社交流史の三部からなる。北垣宗治『新島襄とアーモスト大学』（山口書店、一九九三年）以来の労作である。

関係者の奉仕と働きを労いたい。

（A5判・二六三頁・定価一六五〇円・一般財団法人同志社日米文化財団出版局）

（もとい・やすひろ 元同志社大学神学部教授）

ヨベルの新刊案内

四六判・二八八頁・一九八〇円

パウハラ・セクハラとキリスト教 権威とその乱用

「信仰を守りたいなら、黙っていないなさい」
神にふさわしくないことを行い、神の名を守るために組織ぐるみで一致して隠蔽を謀る：権威の乱用によって傷つき道棄された信仰者を再び立ち上げさせる書！

話題！

A5判変型・二〇四頁・一九八〇円

全信徒祭司の教会を建てあげる イエスの弟子へのひろがり求めて

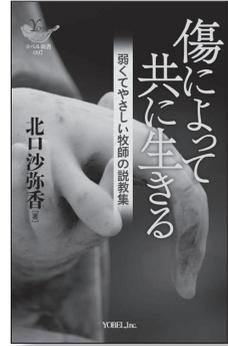
「反響！」

D・ワトソン&P・ワトソン
訳者：松村隆／監修：福田崇 全信徒が弟子、イエス運動の担い手。今までの宣教論を覆す大言教命令親書。生活のすべての場所で聖霊の働きに抛りながら、できる限り非宗教的であろうと努力する。

ヨベル YOBEL Inc. info@yobel.co.jp
〒113-0033 東京都文京区本郷4-1-1-5F
TEL03(3818)4851 FAX03(3818)4858
出版の手引き / 呈 (税込)

今の生き難い人々の姿を見つめ 語られる

〈評者〉 島しづ子



傷によって共に生きる

弱くて優しい牧師の説教集

北口沙弥香著



北口沙弥香牧師の説教集を読んで、ショックだった。自分はおれほどにイエスと生き難い人々との出会いを鮮やかにお伝えして来ただろうかという反省である。それほどにイエスと出会った人の置かれた状況がテキストに即して生き生きと描かれている。

もう一つのショックは「傷によって共に生きる」(本書24頁以下)の中で語られている「傷」に対する捉え方である。聖書箇所はイエスが疑い深いトマスに現れ、ご自身の傷口を示した箇所である。この箇所から北口牧師は語る。「わたしたち誰もが傷を負っているのです。そしてその傷は、よみがえらされたイエスに傷が残っているように、癒えても残りつづけます。誰もが生きる中で傷を負い、残る傷がある点で、わたしたちは兄弟姉妹であり、家族であります。」(30頁)。「キリストが傷を残してよみがえられたのは、

それぞれに傷を持つわたしたちを『傷によって共に生きる』という生き方に招くためだったのではないのでしょうか。わたしたちには傷があります。なら、その傷によって共に生きることはできないのでしょうか。傷によって傷付け合うのではなく、それに対して思いやりをもって、愛し合うことはできないのでしょうか。決してそうではないと信じています。」(31頁)とある。

イエスに出会ってすべてが解消するわけではなく、確かにわたしたちには傷がある。その傷によって互いを傷つけ、傷によって無意識に弱い相手を攻撃してしまう。この傷によって人類は悲惨な歴史を重ねて来たようにも思われる。傷を持ったまま、共に生きる、この生き方はいかにして可能なのだろう。

北口牧師が牧師になる決断をしたときに、モデルの牧師

がいた。すぐれた傾聴のできる牧師である。その傾聴の持つ力を「マーゴイとしての牧者」(34頁)の中で著者は記す。「癒されなければならない者が『受け入れられた』と体験できるようにすることだと思っております。人が『受け入れられた』と思えるのは、自分の思いや感情が否定されず、それが届いたと思えたときではないでしょうか。」とある。その項の終わりの方に「傷に塩を塗らずに話を聴ける牧師」という記述がある。辛辣な言葉だが、その通りだ。

「喜びながら自分の道を歩く」(90頁)ではフィリポとエチオピアの宦官の出会いが記されている。そのまとめ部分に「私は聖書が読みたい(カッコ内省略)と思う人に聖書に隠された宝を伝える教師を志すことになりました。」とある。フィリポが宦官に心から寄り添い、この宦官が



メタファーとしての譬え

福音書中の譬え・譬え話の聖書学的考察

原口 尚彰 著

●A5判並製 191頁

定価 2,200円

本書は福音書における譬え・譬え話の包括的理解を目指した。イエスの説教に対しては包括的に修辞学的研究の対象となったことがあるが、譬え話に特化した本格的な修辞学的研究はまだ緒に就いたばかりである。イエスが譬え話を用いて聴衆に語り掛け、真理を認識させ、生き方の転換を生むコミュニケーションの過程を修辞学的視点よりの解明も試みた。

ISBN978-4-86376-101-8

LITHON [リトン]

〒101-0061 千代田区神田三崎町2-9-5-402
☎03-3238-7678 FAX03-3238-7638

「喜びながら彼の道を生きる」ことへと導かれたように、その人その人の生き方を認め「喜びながら自分の道を生きる」ことができるような働きをしたいと結んでいる。

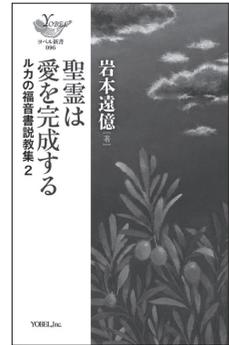
聖書の中の生き難い人々の声を聞き、今の生き難い人々の姿を見つめ、両方の声を聞きながら語る牧師の言葉に慰められた。「弱くてやさしい牧師の説教集」という副題は本書の内容をよく表現している。ご自分の弱さや傷を隠さず、福音を伝える牧師の言葉に共感するばかりである。週日は介護職をし、テキストに忠実に、優しく語る牧師の働きに感謝している。

(しま・しづこ 日本基督教団うぶざと伝道所牧師・辺野古新基地建設抗議船船長)

(新書判・二四四頁・一四三〇円・ヨベル)

私たちをキリストにある生に 導く珠玉の説教

〔評者〕 濱 和弘



聖霊は愛を完成する

ルカの福音書説教2

岩本遠徳著



本書は、キリストの平和教会の牧師であり、かつ神田外語大学の言語学の教授である岩本遠徳牧師による説教集であるが、この説教者の経歴が、その説教に見事に反映されている。即ち、歴史的考察に対する深い洞察と聖書釈義には研究者としての側面が、また、聖書の言葉をわかりやすく教え導く説教の語りには教師としての側面が表れて出ている。それゆえに、本書に収められた十一の説教は、いずれも論理は明瞭であり、聖書の言葉を理解するための思考のプロセスが丁寧に示されている。

だからといって、いずれの説教も、けっして押し付けがましいものではない。むしろ、注意深く読者と対話しつつ、読者が自分の頭で考え、自分自身が納得するための導きを与える思考のプロセスを示していく。その意味で、本書は、読者を神の言葉である聖書の前に立たせ、聖書の言葉と対

話させ、読者一人一人が、聖書を通して語る神の語りに耳を傾けさせるものとなっている。

とはいえ、説教には説教者の持つものの見方や神学が反映されるのは自然な事であって、本書の説教にもそれが垣間見える。たとえばそれは、人を喜ぶに満ち生きることを願う神観となつて表れ、それゆえに、神は人を苦しみと滅びから解放し救うという救済観として現れ出ている。キリストの十字架は、罪の代償というよりも、悪魔に対するキリストの愛による勝利の業であるとされる。またこの救済観の背後には、人間は、神の本質に繋がる神の像を有する神の大切な一部分であり、神の命に溢れ、喜び生きる存在であるという人間観と共に、現実には、その喜びに生きる事ができず、神の命に欠けた生き方を強いられ、神の目に失われた存在となつているという現実理解がある。それ

ゆえに、神は「人間を探し求める神」なのである。

この神の命に欠けた生き方を、説教者は罪と呼ぶが、その罪の原因を人間の内側に見るのではなく、むしろ人間の外側にある悪魔的な力に見ている。だからといって人間の内側にある罪の問題を見落としてはいけない。外側の悪魔的な力に誘惑され、引き起こされる人間の肉の欲望に支配される現実や自らの善行に安心を求め、自己を正当化する自己義認を人間の内側にある汚れとして罪を捉えている。

このような神学的理解のもとで聖書が読み解かれ、それが説教という場において語られていく。説教は、それを聴く者の心に神の慈愛が届けられ、慰めと今ここでの生を生きる力を与える励ましを与えてこそ説教である。そういった意味では、本書に収められたいずれの説教も、それらを

もたらす神の言葉の恵みに満ちている。私たちの内側にある罪の問題を指摘する言葉があっても、けっして私たちを責めるのではなく、逆に私たちの現実を目を向けさせ、汚れた内面だけでなく命に溢れる愛の根源があることを知らせる。そのうえで、その愛の完成者であるキリストに目を向けさせるのである。そして、そのキリストと一つに結ばれる聖霊なる神の御業の中で、私たちがキリストに倣い生きること、私たちの内にある愛を完成させることができ

るのだと励ましていく。それはまさに慰めであり、生きる支えである。そういった意味で、本書の説教は、私たちがキリストにある生に導いている。

(はま・かずひろ) 日本ホーリネス教団小金井福音キリスト教会・相模原キリスト教会牧師

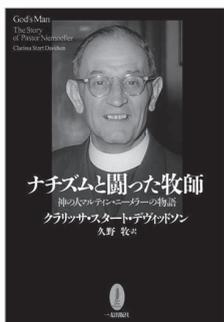
(新書判・二〇〇頁・定価一三二〇円・ヨベル)



ナチズムと闘った牧師

神の人マルティン・ニーメラーの物語

クラリッサ・S・デヴィッドソン
久野牧*訳



「しかし、その時には手遅れであった」という有名な言葉の作者の疾風怒濤の物語。ニーメラーは言う、「もし戦争を防ぎたいければ、平和のために働かなければならぬ」。彼はまさしくそのように生きた人物である。

A5判・上製本
定価 3,740 [本体 3,400 + 税] 円
ISBN978-4-86325-156-4



株式会社 一麦出版社
札幌市南区北ノ沢3丁目4-10
TEL (011) 578-5888
<http://www.ichibaku.co.jp>
携帯 mobile.ichibaku.co.jp

多彩なユダヤ共同体の 長い歴史から生まれた祈りの数々

〈評者〉 勝又悦子



ユダヤ教の祈り
祈禱文と解説
吉見崇一 編訳



ユダヤ教の祝祭についての平明な解説でも知られる吉見崇一氏による、ユダヤ教の祈りの解説書である。日本においてはシナゴーク（ユダヤ教の礼拝所）の数はごくわずかであり、映画や動画でユダヤ教の礼拝を見る機会も殆どない。そんな状況の中、一〇〇をも超えるユダヤ教の様々な祈りを日本語で詳細に知ることができるのは、非常に有難いことである。

礼拝というと、司式者のもと同一のスライド（祈祷書）で一斉に厳かに進むというイメージがあるかもしれないが、おおよそ、その真逆にあるのがユダヤ教の礼拝である。シナゴークの入り口には様々な種類のスライドが雑多に積み上げられており、礼拝中は、しばしば個人ペースの祈りになり、みな一心不乱に身体を揺らしながら小声で祈りを唱え続ける。ユダヤ教の祈りは身体的で動的である。そ

して、安息日の礼拝の場合はトーラー朗読のためにトーラーの巻物が出てくると、シエマア・イスラエル（本書五二頁参照）の大合唱となり、女性席からは巻物に触れようと皆の手が伸び、興奮は頂点を迎える……こうした喧噪の礼拝に参列していると、しばしばスライドの進行から脱落してしまう。

評者も研究や授業のために手持ちのスライドから部分的に私訳を試みたこともあるが、あまりの量の膨大さに眩暈を感じてきた。今回、吉見氏の労により、祈りの大部分を吟味された邦訳で理解することができるのは大変有益である。そして、吉見氏の邦訳によっても、祈りの膨大な量にやはり圧倒される。祈りの中でも中心となるシエマア・イスラエル、立禱（アマター）（五五頁以降）も、訳出すると相当な分量になる。礼拝の基本型となる「朝の祈り」

は、説明も含めるが本書で四〇頁以上に及ぶ。これだけの量の祈りを唱えるユダヤ教徒のエネルギーに驚嘆する。

祈りの内容も興味深い。評者はユダヤ教文献の中でも細かい法規議論や時に神の言葉への単刀直入な疑問も辞さない聖書解釈を中心に学んでいるが、それらとは対極の言葉が祈りの世界には広がる。神への一途な賛美、崇高な愛、自己の罪深さの吐露、懺悔、赦しの嘆願、全幅の神への信頼の念に溢れている。だが、この一途な神への賛美の祈り、は、先述のように、個々のペースで、がやがやとした喧噪の中で唱えられるものだ。その内容の一途さとそれがばらばらの声の集成として伝えられるというコントラストが印象的である。加えて、スイドールには、法規議論（九七頁以降）、中世思想家マイモニデスの言説（四〇頁）、ピュー

ト（宗教詩）（六四頁）も様々なジャンルが取り込まれ、多様なユダヤ共同体の事情を反映した多彩なスイドールが存在している。ユダヤ教の一であり多である本質を感じる。吉見氏の手元にある一六種類にも及ぶというスイドールの紹介（評者の手元のものとはまた別バージョンのようだ）、またキリスト教やイスラームの祈りとの比較も興味深いところである。新約聖書の中でイエスが推奨した祈りの背景を知ることにもなる。また、現代の価値観に合わない表現も多々あるユダヤ教の祈りの今後が気になるところであるが、今はただ、祈りの中で何度も祈願される「争い」「苦難」からの贖いと世界の平安が来たらんことを祈るばかりである。

（かつまた・えつこ 同志社大学神学部教授
A5判・二一四頁・定価二八〇円・教文館）



シュメールの 王碑文を読む

前三千年紀の王たちは
何を述べたのか

前田 徹 [著]

- A5判上製 314頁
- 定価3,300円(税込)

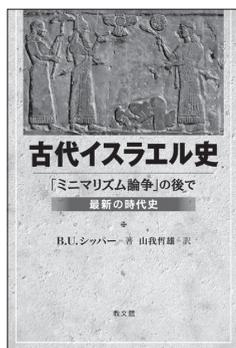
今から四千年前のシュメール時代は原始社会などでなく、現代にも通じる文字を媒介とした独自の思考方法を持っており、文字による表現法が工夫されていた。王碑文をはじめ、年名や王讃歌が、どのように作られ、どのように使われたかを明らかにする。付録として、「シュメールの都市・文化・歴史」を収録し、旧約聖書の根源であるシュメール文明の一端を明らかにする。

LITHON [リトン]

〒101-0061 千代田区神田三崎町2-9-5-402
☎ 03-3238-7678 FAX 03-3238-7638

近年の研究を反映した 新しいスタンダード

〈評者〉長谷川修一



古代イスラエル史

「ミニマリズム論争」の後に…
最新の時代史

B・U・シツパー 著

山我哲雄 訳



筆者が初めて「古代イスラエル史」に触れたのは、一九四四年、大学のキリスト教学科の同名の授業であった。筆者がその後、研究者の道を歩むきっかけとなった授業である。当時は、本書でも取り上げられている「ミニマリズム論争」が吹き荒れている頃だったが、授業でそのことが取り上げられた記憶はない。

それから三〇年の月日が経過した。この間、聖書学、文献史学、考古学それぞれの研究の著しい進展とともに、「古代イスラエル史」は大きく書き換えられた。筆者が学生時代に手にした、日本語で手に入る「古代イスラエル史」関連の文献の多くは、聖書の記述をなぞるような歴史の展開を記述するものだった。出エジプト、土地取得、王制の導入と王国の栄枯盛衰、バビロニアによる捕囚、アケメネス朝ペルシア時代の捕囚からの帰還と神殿再建、そし

てヘレニズム時代の独立樹立、という流れである。当話題とされていたのは、土地取得のあり方とダビデとソロモンの統一王国の栄華の史実性であった。テル・ダン碑文発見後の一九九〇年代後半は特に、統一王国の史実性をめぐる論争が盛んになった。

その後の三〇年間でとりわけ研究が進展したのは、当初ミニマリズム論争の最大の焦点となっていた統一王国時代よりも、むしろアケメネス朝ペルシア時代であろう。統一王国時代の繁栄ぶりを描く聖書記述の歴史的信憑性に大きな疑問符がつくことについては、論争の比較的早い段階で一定のコンセンサスが得られていたからである。

聖書の大部分が文字として記されたのは、未曾有の繁栄を享受していたとされるソロモンの宮廷などではなく、バビロニアに王国を滅ぼされた後の時代である。そうである

ならば、統一王国時代の栄光は、「捕囚の中で生きるイスラエル民族の存在の理由説明」（一五頁）の一部として描かれたものとして理解できる。

アケメネス朝ペルシア時代は、聖書の執筆・編纂が活発に進められた時代であったと言える。したがって、この時代の歴史像が大きく書き換えられたことにより、聖書の成立やその記述の背景に対する見方も必然的に変わった。こうした変化は、聖書の記述が時代ごとの社会的要請によって執筆・編纂されたという理解に基づいている。逆に考えるならば、聖書を「生活の座」において理解しようとする人は須らく、「古代イスラエル史」を是が非でも学ばねばならないということになる。

本書はこうした近年の著しい研究の発展をよく反映した



皆川達夫セレクション ルネサンス古楽の記譜法 白符計量記譜法入門

皆川達夫
樋口隆一 監修
宮崎晴代

長年中世音楽合唱の普及に尽力した西洋音楽史学者が、ルネサンス期の楽譜を原典で歌う上で必須の知識を、豊富な実例・譜例を交え初学者向けに解説。

B5判上製・64頁・定価3080円



信仰生活ガイド《第2期最終回配本》 苦しみの意味

柏木哲夫 編

人生に襲いくる数々の苦しみをどう考えるか。複数の執筆者が聖書や様々な実体験を紹介しながら、読者と共に「あなたの苦しみの意味」を考える。

四六判・並製・128頁・定価1540円

「古代イスラエル史」の好書である。その「歴史記述では、稀にしか旧約聖書のテキストには触れられない」（一一頁）ため、従来の「古代イスラエル史」に親しんできた読者は、最初戸惑いを覚えるかもしれない。しかしこうした記述こそが、「古代イスラエル史」の新しいスタンダードを示しているのである。

筆者はこれまで、本書の訳者である山我哲雄氏の『旧約・新約聖書時代史』を長らく授業の参考書として推薦してきた。だが、「訳者あとがき」で氏自身が記すように、その内容は些か古くなっている。今後は聖書を学ぶすべての人に、「古代イスラエル史」の基本書として本書を推薦したい。

（はせがわ・しゅういち）立教大学文学部教授
（四六判・一九四頁・定価三三〇円・教文館）

日本キリスト教団出版局

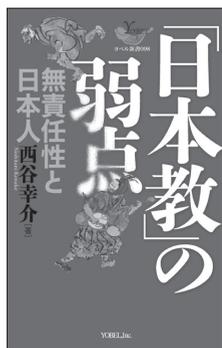
〒169-0051 東京都新宿区西早稲田2-3-18
☎03-3204-0422 ☎03-3204-0457

E-mail eiygou@bp.uccj.or.jp 《価格10%税込》

<https://bp-uccj.jp>

日本人のもつDNAを見事に 分析・展開した西谷学

〔評者〕 深井智朗



「日本教」の弱点

無責任性と日本人

西谷幸介著



本書の著者が牧師としての責任を負う戸山教会は、もともと「陸軍戸山学校」があった場所で、教会の土台となっているのは、かつての「将校集会所」だ。マッカーサーが

日本を去る際、「駐留軍宿舎を無償提供すること」でできたのが「戸山ハイツ」で、「何かセンターになるものを」というGHQの提案に、都の建築局長が「教会」はどうかと返答したことで生まれた。不思議な歴史だ。軍事施設があたかも回心して洗礼を受けたかのように、教会の土台となった。ここにあった陸軍幼年学校の最上級生として敗戦を迎えた少年が、戦後、献身して牧師になった。実は、著者も評者も、若い頃この牧師の指導を受けた。時々、「天皇には奈良にお帰りいただき、皇居をセントラルパークにしよう」などと真面目な顔で言うので戸惑ったが、他方で、戦後の日本人は本当に新しい生き方を始めたのか、「日本

は変わるか」と真剣に問い、独自の日本人論や「日本の神学」を展開した。批判もしたが、それ以上に多くを学び、また教えられた。

これまで日本人論はどれくらい書かれたのだろう。どれを読んでもしっくりこないのは、あまりにも分析が第三者的で、批判も手厳しく、これを書いている著者自身はどこに立つのかと考えてしまうものか、逆にあまりにも実存的過ぎて、日本への愛の告白のような議論のどちらかだからだ。でも、本書は違う。どちらの要素ももっているが、真剣さが違う。それは、著者が、これからの日本のために、将来を生きる者たちに語りかけようとしているからだ。また、本書の根底にあるのが、伝道者としての願いで、パウロのように、元来普遍的な問いでもある「人間とは何か」という問いを「日本人には日本人のように」語ろうとして

いるからだ。

著者は、既に英語と日本語で自説を公にしているが、本書で特に注目すべきは次の二点だ。第一に、日本人には暗黙の宗教としての「日本教」があり、その内実は「母子の愛情」だ、ということ。第二に、第一の事実に基づくなら、母親が子の抱える問題の解決に責任をもつのが日本の責任性の原型なのだが、現実には、「子の難局を解決すべき慈母たる親がむしろ自身で難局に陥り、そこに子からの救いを要求するという事態」であり、しかもそれに「子が応じる」という逆転が起こっている、という点だ。そのため「親の恩を忘れたか」という言い草で、子の報恩を親の権利として要求する。また、個人のレベルだけではなく、社会のさまざまな場所で、この構造を利用する日本システムがはびこる。その典型が、数々の日本人論に登場する「国民は天皇の赤子」ではなく「天皇は国民の赤子」という逆転だ。著者は、記紀、日本ではほとんど知られていなかった英文の「神道信条」の文献学的分析や解釈、さらには日本の伝統芸能や文学のテクストを読み解きつつ、その上でこう言いたいのだ。この日本の曖昧さ、無責任性、弱点に気づき、これを克服せよ。「日本人がこの問題を克服できれば、日本文化は世界の諸文化に多くの面で貢献しうるの

ではないか」(28頁)。

この日本人論は神学的だ。神学は、人間に命を犠牲にすることを求める神や君主ではなく、人間を救うために独り子を十字架につける神がいることを知っていて、その土台の上で日本人論を展開する。

歴史の中に、あるいは個々の人生に新しいことが起こる。たとえば陸軍戸山学校が戸山教会になる。歴史学や社会学はその事態を、資料を使って説明したり、心理学的に分析したりもするのだろう。でも、神学的「日本人論」は、ここに神の真実と救済の歴史を見て、しかも永遠の相のもとに相対化し、社会や人間の現実の問題を抉り出す。いや、そこに留まることなく、最後には、私たち自身が自分に気づき、回心し「新しい人間」になることを勧める。私は他の誰かにではなく、自分に対してそのように語られたと感じ、本書を読み終えた。

(ふかい・ともあき 愛泉教会牧師)

(新書判・二六四頁・定価一六五〇円・ヨベル)

教会改革の示す普遍性

〈評者〉 齋藤五十三



災禍において
改革された教会

その祈りと告白、実践の歴史と現在

カルヴァン・改革派神学研究所*

B-28

叢書「改革教会の神学」2
災禍において改革され

た教会

その祈りと告白、実践の歴史と

現在

編 カルヴァン・改革派神学研究所



本書は、カルヴァン・改革派神学研究所主催の「公開リレー講座」として二〇二一年六月一日から一年八か月をかけて行われた中の十回の講演をまとめた講演録である。世界がコロナ禍で苦悩する中、スイス宗教改革から近現代まで、様々な災禍の中で改革に取り組んだ教会の姿から学びつつ、今の時代の課題を掘り下げるといふ実に印象深いリレー講座が書籍となったことをまずは歓迎したい。

本書が「災禍」という言葉をもって捉えようとする射程は多方面にわたる。同研究所長の大石周平氏によれば、「自然災害や感染症」の他、「人災」と、そこから「剥き出しになる社会構造」、さらには「戦時の暴力・破壊」も災禍の中に含まれている（七頁）。そうした広がりを持つとなれば、災禍はもはや特別のものではあり得ず、むしろ時代や地域を超えて教会は絶えず災禍と向き合い、その中で

神の言葉に聴きつつ改革の汗を流してきたのだと、本書を手にした読者は気づかされるであろう。

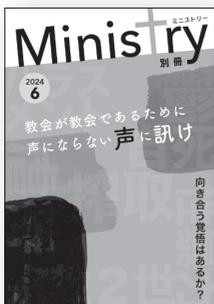
紙幅の関係で個々の講演タイトルや講演者の背景に言及することは叶わないが、順を追いつつながら印象に残った点を綴ってみたい。

ツヴィングリの「ベストの詩」を扱う大石周平氏の講演は本書全体の基調を成し、チューリヒの人文主義者が改革者へと転じた転換点にペスト罹患の災禍があったとの視座が斬新である。ニクラウス・ペーター氏は、過去の歴史に根差した信仰告白の遺産が、災禍の中で新たな聖書の光に照らされつつ刷新されるべきと訴えかける。吉田隆氏は、東日本大震災における神学の役割を問いつつ、苦難を神の訓練と受け止め、そこに再生の希望をも見出したカルヴァンの摂理の信仰に注目する。キャサリン・マクミラン氏は、

特集

別冊 Ministry
 教会が教会であるために
 声にならない声に訊け

満を持して、「あの」雑誌が帰ってきた――。



雑誌「Ministry」が2009年に創刊して15年。地方教会で奮闘する次世代の教会者を応援したいという当初の志に立ち返り、コロナ禍の危機を経てなお教会内外に蔓延する「声にならない声」に今一度耳を傾ける。

- 「サバイバー」たちの鎮魂歌
- 実践講座「ぜんねんな言葉集」
「安心できる共同体になるために」
- 鼎談「牧師のタマゴ未来会議」
- 「ハタから見たキリスト教」
松谷創一郎（ジャーナリスト）

B5判・72頁、定価1,650円（税込）

キリスト新聞社 since 1946

169-0051 東京都新宿区新小川町9-1 4F
 03-5579-2432 support@kirishin.com

ヨーロッパの改革を目指したツヴィングリ再評価を呼びかけ、森島豊氏は、キケロまで遡るカルヴァンの抵抗権の系譜が、日本国憲法誕生にも影響を及ぼしたことを、丁寧な歴史考察を通して論じている。吉岡契典氏はヨハネス・ア・ラスコに注目しつつ、ロンドンの亡命者による教会が苦難渦中における「逃れの町」となり、教会の自律を求めらる中で長老主義政治を生み出したことを解き明かした。朝岡勝氏と石原知弘氏の対談では、「唯一の御言葉」であるキリストのみに聴く「バルメン宣言」の命題が今日も有効であり、教会を励まし続けていることが例証をもって語られる。リタ・ファモス氏は、現在も続く教会の改革が、災禍の中でさらに顕在化していることを指摘しつつ、改革とは人々の活気あふれる「ふるまい」であるとの主張がユ

ニークである。松谷暉介氏は、絶えず形を変えながら中国で継続している「信教の自由」をめぐる戦いを紹介している。最後に飾る渡辺祐子氏は、関東大震災前後の在日中国人キリスト者たちの姿に着目し、負の歴史に光を当てながら教会の新たな課題を明らかにしている。

以上の講演内容には、スイス宗教改革五百年や関東大震災百年、そして東日本大震災から十年等の時代の節目を意識したものが多く、それぞれが歴史における個別の出来事を扱っているのだが、そうした個々の論考の後に見えてくる光景が、いずれも普遍的な真理契機を帯びており、深い印象を心に残したことであった。

（さとう・いそみ 東京基督教大学准教授）
 （A5判・二七四頁・定価三九六〇円・教文館）

■新教出版社

倫理

— D B W版新訳

デイートリヒ・ボンヘッファー著

宮田光雄監訳

ボンヘッファーがライフワークとして取り組み、ナチによる逮捕と刑死によつてついに未完に終わった倫理学。長らく森野善右衛門訳『現代キリスト教倫理』として読み継がれてきたが、ここに新版ボンヘッファー全集第6巻(D B W 6)に基づく全く新たな訳が完成。膨大な脚注を付した本書は、著者の構想を余すところなく明かにし、キリスト教倫理の可能性を鮮やかに指し示す。

四六判・770頁・予価9900円

善き力

— ボンヘッファーを描き出す12章 [仮題]

イルゼ・テート著

岡野彩子訳

著者は、夫H・E・テートと共に新版ボンヘッファー全集(D B W)の編集に絶大な貢献を果たし、ボンヘッファーのテキストに誰よりも通暁する碩学である。本書は、著者が2000年代初頭に、主として一般市民を対象に語った講演を収録する。様々なテーマを切り口に、ボンヘッファーの信仰世界の豊かさが生き生きと描き出される。

四六判・328頁・予価3300円

INFORMATION

近刊情報

■日本キリスト教団出版局

使徒言行録を読もう

川崎公平著

人名や地名が頻出し、難しそうな使徒言行録。「新約聖書の中で、使徒言行録ほど面白い文書はないかもしれません」と語る説教者が、いきいきと説き明かす。

四六判・224頁・定価2750円

闇のなかに光は輝き

— クリスマスの黙想24

平野克己編

アウグスティヌスをはじめとする人々のことばと、クリスマスの名画でつづる黙想集。プレゼントにもぴったりの一冊。

A5判変・54頁・予価1300円

皆川達夫セレクション

音楽も人を救うことができる

皆川達夫著

樋口隆一編

日本に西洋古楽の魅力を広め、合唱指導、キリシタン音楽研究でも活躍した一方、多彩な趣味でも知られる著者。その業績と人柄を偲ぶエッセイ・講演集。

A5判・258頁・定価3960円

V T J 旧約聖書注解 列王記上 12～16章

山我哲雄著

統一王国が分裂した後の北イスラエル王国と南ユダ王国の歴史の実相を、考古学や聖書外資料を取り入れながらたどる。

A5判・314頁(予定)・予価4800円

イエスの歩み31

――私に徒いなさい

吉村和雄著

降誕から復活まで、イエス・キリストの生涯をたどる31のショートメッセージ。身近に置いて毎日読もう。クリスマスプレゼントにもぴったり。

四六判・144頁・予価1650円

聖書ぬりえ かみさまといつもいっしょ

金 斗鉦著

「天地創造」「最後の晩餐」などの旧約聖書・新約聖書における22の名場面のぬりえを収録。かわいいうイラストで描かれており、大人にも子どもにもおすすすめ!

B5判・48頁・予価1000円

不安と孤独の処方箋

――病の教訓、聖書のヒント

石丸昌彦著

INFORMATION

近刊情報

誰もが抱える不安と孤独にどう向き合ったらいいのか。クリスチャンの精神科医が専門的知見と聖書の話から、わかりやすく伝える。

四六判・224頁・予価2300円

70歳からのキリスト教

――聖書でたどる人生の旅

大澤秀夫著

『信徒の友』の連載に加筆修正。聖書の物語から、高齢者の生き方を考える。

四六判・128頁(予定)・定価未定

それでも、希望に生きる

――聖書黙想366日

上垣 勝著

聖書が導く日々の黙想の書。

A5判・320頁(予定)・定価未定

無行を旅した人 押田成人

その生涯と思索に出逢う(仮)

宮本久雄、石井智恵美編

現代文明に警鐘を鳴らし、信州に祈りの共同体「高森草庵」を創ってそこに生きた押田成人神父の生涯とその思索をたどる一冊。

四六判・176頁(予定)・定価未定

■教文館

悲しみの向こう

——希望の扉を開く言葉366

片柳弘史著

『「こころの深呼吸」『やさしさの贈り物』に続くシリーズ第3弾！ 離れたり失ったり、病や死など、心にさまざまな悲しみを抱える人に寄り添う神父のことは。

A 6判・390頁・定価990円

キリスト教の信じ方・伝え方

——弁証学入門

A・E・マクグラス著

田中従子訳

なぜキリスト教を信じるのか。キリスト教の真理性・妥当性を証しするために必要な弁証学の基本的な内容と思考を学ぶのに最適な入門書。

A 5判・272頁・定価3300円

INFORMATION

近刊情報

書店名	郵便番号	住所	電話	ファックス	URL	メール	郵便振替
北海道キリスト教書店	060-0807	札幌市北区北七条西6丁目	011-737-1721	011-747-5979	http://www.jp-shop.com	sasaki@jp-shop.com	02770-2-56520
善隣館書店	020-0025	盛岡市大沢川原3-2-37	019-654-1216	共用		zenrikan_system_0530@ghoo.co.jp	02350-0-874
エッセイの木	980-0012	仙台市青葉区錦町1-13-6 エマオ1F	022-223-2736	022-302-6678	https://sendaicbs.uccj.jp/	info@sendaicbs.uccj.jp	02230-0-31152
恵泉書房	260-0021	千葉市中央区新館2-1 千葉カシヤセンタービル	043-238-1224	043-247-3072	http://www.keisen.christian.jp	keisen@vestia.ocn.ne.jp	00120-9-43619
教文館	104-0061	東京都中央区銀座4-5-1	03-3561-8448	03-3563-1288	http://www.kyobunkwan.co.jp	xbooks@kyobunkwan.co.jp	00120-2-11357
待長堂	167-0053	東京都杉並区西荻南3-16-1	03-3333-5778	共用	http://taishindo-books.jimbo.com/	taishindo@ej.com.home.ne.jp	00110-8-95827
バイブルハウス青山	104-0061	東京都中央区銀座4-5-1	03-3567-1995	03-3567-4435	http://biblehouse.jp	biblehouse@bible.or.jp	00160-2-18410
東京キリスト教書店	112-0014	文京区目黒1-44-4 塚廻ビル1F 日キ納(傍藤野門)	03-3260-5663	03-3260-5637		tokyo@nikkikan.co.jp	00130-3-60976
横浜キリスト教書店	231-0063	横浜市中区花咲町3-96	045-241-3820	045-241-5881	http://www.brighter.jp/~yokohamads/index.html	sksch@mva.biglobe.ne.jp	00250-4-2512
清光書店	951-8114	新潟市営所通一番町313	025-229-0656	共用		00560-8-51419	
静岡聖文舎	420-0866	静岡市葵区西草深町20-26	054-260-6644	054-260-5612	http://www.s-seibun.co.jp/	info@s-seibun.co.jp	00810-8-26558
名古屋聖文舎	466-0045	岐阜市瑞穂区瑞穂16 日本キリスト教団瑞穂会館	052-680-8090	052-680-8091	http://nagoya-seibunsha.la.coccan.jp/	nagoya-seibunsha@nifty.com	00810-5-14073
京都ヨルダン社	602-0854	京都市上京区荒神口通河原町東入ル	075-211-6675	075-211-2834	http://web.kyoto-net.or.jp/people/kjordan/	kjordan@mbox.kyoto-net.or.jp	01010-2-594
大阪キリスト教書店	530-0013	大阪市北区茶屋町2-30	06-6377-6026	06-6377-6027	http://osekacbs.web.fc2.com/	ochrbook@river.ocn.ne.jp	00990-3-43009
堺キリスト教書店(聖徳社)	591-8044	大阪府堺市北区中長尾町2F-1-18	072-254-2233	共用		sakaix@outlook.jp	00970-0-172228
神戸キリスト教書店	650-0021	神戸市中央区三宮町3-9-18 三陽ビル2F	078-331-7569	078-945-9388		kobex@nikkikan.co.jp	00170-2-421390
広島聖文舎	730-0841	広島市中区舟入町12-7	082-208-0022	082-208-0177		hseibun0951@yahoo.co.jp	01360-4-1958
リバーサイドブックス	779-1105	徳島県阿南市羽ノ浦町古大道路/西13	090-8694-4986	050-3142-3017		ykwbt3@gmail.com	16220-17974891
松山キリスト教書店	790-0804	松山市中一万町1-23	089-921-5519	089-921-5413	http://www.geoties.jp/matsuyama_1007/mbs.html	sksch@dokidoki.ne.jp	01650-1-2120
新生館	810-0073	福岡市中央区舞鶴2-7-7	092-712-6123	092-781-5484	http://www.sinseikan.jp/	info@sinseikan.jp	01750-5-10932
キリスト教書店ハレルヤ	862-0971	熊本市大江4-20-23	096-372-3503	共用		k-haleruya@bible.or.jp	00160-2-18410
沖縄キリスト教書店	904-2143	沖縄県沖縄市知花4丁目12-33	098-927-0220	098-938-1102	https://www.okinawacbs.net	info@okinawacbs.net	01790-4-152916

※一般書店関係の方は 日キ販営業部 TEL 03-3260-5670 にご連絡ください。

福音と世界

2024年11月号

特集Ⅱ現代日本において

宗教哲学を構想する

寄稿者Ⅱ杉村靖彦、脇坂真弥、鬼頭葉子

濱崎雅孝、谷塚巖、岡田勇督

リレー連載「荊冠の神学」を読み直すⅠ（小柳

伸顕）／好評連載「わたしの闘い」吉谷かお

るさん、証言としての旧約聖書（田島卓）、日

本的キリスト教」を読む（山口陽二）、新約釈義

ルカ福音書（山崎ランサム和彦）、他

A5判・定価660円・〒70円

定期購読についてはお気軽にご相談下さい。

新教出版社 TEL: 03-3260-6148

Email: sales@shinkyō-pb.com

から室集編



今年のキリスト教書店大賞は最相

葉月さんの『証』（KADOKAWA）

が受賞しました。副題にある「日本

のキリスト者」一三五名の信仰の証

しをつづったインタビュ集です。

クリスチャンではないという著者

がキリスト者の信仰をどう受け止め、どう表現するのか。こ

れまで多くのキリスト者にインタビューをして記事を書いて

きたので、正直、ちよつと上から目線で読み始めたと思いま

す。しかし、それは大変なおごりでした。

信仰者一人一人の真摯な歩みがユニークに綴られ、わたし

はその多くに心を打たれました。著者の力量はもちろんです

が、そこに神の計らい、キリスト教の普遍性が働いているこ

とを感じます。こんなふうを書くのは職業病ではないかと思

予告

本のひろば

2024年12月号

本・批評と紹介

（書評）大嶋重徳著『若者と生きる教会・若者に届く説教』、小高夏期自由大学事務局編著『心折れる日を越え、明日を呼び寄せる』、ヘンリー・ナウエン著『イエスさまについて行こう』他

いつつ、やはりそうだと思ってしまうのです。

昨年度編集担当した書籍の製作過程で、キリスト教文学の

定義をめぐって議論がありました。芥川らキリスト者ではな

い作家の作品をキリスト教文学としてよいのだろうかという

意見があったのです。その意見に当該書籍は「まえがき」で

こう応えています。「作者がキリスト教徒でない作家・詩人

であったとしても、その文学的発想や営為の根柢に、キリス

ト教や聖書があり、そこからのメッセージと融和し、あるい

は格闘しながらも、それに捕らえられ促されて表出する魂の

文学」が本書におけるキリスト教文学の定義である、と。

付け加えれば、キリスト者ではないからこそ、キリスト者

でない人たちに神の愛を伝える言葉をより豊かに持ちうるの

ではないかと、つらつら考える日々です。

（市川）

聖書学と信仰者

信仰者は批判的聖書学
とどう向き合うべきか

M・ブレットラー、D・ハリントン、P・エンス著／魯恩碩訳

ユダヤ教、カトリック、プロテスタントの3人の著名な聖書学者が、旧約聖書を批判的かつ信仰的な観点から読むことは可能だという確信の下、そのあり方をめぐり相互の立場と方法を論じた白熱討論！

◆A5判・定価2970円



ロゴセラピー

人間への限りない畏敬に基づく心理療法

エリーザベト・ルーカス著／草野智洋・池田繁子訳

フランクルの高弟による体系的な教科書。ロゴセラピーは、人間を身体・心理・精神の三次元で捉え、とりわけ精神次元を重視する。本書は、その基礎概念を説明したのち、「生きる意味」の発見を支援する実践技法を懇切に解説。医療と心理のみならず、教師や宗教者など人と深く関わる全ての者にとって豊かな示唆に富む。

◆A5判・定価3300円



現代エキクメニカル運動史

藤原佐和子著 ジェンダー正義の視点から読み解く

女性按手の是非やセクシュアリティをめぐる論争を軸に、気鋭の研究者が一次資料から丹念に綴った、新たな視点に立つエキクメニズムの歴史。

◆A5判・定価3740円



内村鑑三問答

鈴木範久著 70年にわたり内村と向き合い続け、内村研究を主導

してきた著者が、「なぜ最初の結婚は破綻したのか」「天皇をどうみたか」など、更なる解明を要する24の「謎」を取り上げ、その人格と思想に迫る。巻末に、著者が現時点で最も正確と考える年表を付す。

◆四六判・定価2970円



ロゴセラピーと物語

フランクルが教える〈意味の人間学〉

勝田茅生著 (NHK「こころの時代」講師) ◆B6変型判・定価1760円

フランクルの創始したロゴセラピーの中心メッセージを、民話や寓話を例にとりながら分かりやすく説き明かす。著者はNHK「こころの時代」[ヴィクトール・フランクル]の講師(2024年4月～9月、第3日曜日/同週土曜日放映)

好評
第3刷出来!



ロゴセラピーのエッセンス 18の基本概念 ◆B6変型判・定価2090円

フランクル著／赤坂桃子訳 『夜と霧』英語版に著者自身が付けたまたとない解説。

使徒言行録を 読もう

川崎公平

◆四六判 並製・224頁・定価2,750円



2024年10月15日刊行

初代教会の歩みを記した使徒言行録。一見難しそうなこの書を、「新約聖書の中で、使徒言行録ほど面白い文書はないかもしれない」と語る説教者が、いきいきと説き明かす。

闇のなかに 光は輝き クリスマスの黙想24

平野克己 編

◆A5判変型 並製・54頁・定価1,430円



2024年10月24日刊行

クリスマスの名画24点に、アグステイヌスなどのクリスマスに関することばを添えた、アドベントを導く黙想の書。フルカラーでクリスマスプレゼントにも最適。

皆川達夫セレクション 音楽も人を救う ことができる

皆川達夫 樋口隆一 編

◆A5判 並製・258頁・定価3,960円

全3巻
完結!



2024年10月25日刊行

戦後日本に西洋古楽の魅力を広め、多方面で活躍した皆川達夫。彼が遺した書籍未収録のエッセイ、講演録、鼎談等を通し、著者の幅広い業績とその人柄を偲ぶ。

VTJ 旧約聖書注解 列王記上 12~16章

山我哲雄

◆A5判 上製・314頁・定価5,280円



2024年10月25日刊行

ソロモンの死後に生じた王国の分裂について、王たちに対する評価の背後にある神学思想を描くとともに、聖書考古学や聖書外資料を積極的に取り入れ、歴史の実相に迫る。

本のひろば.com

